

がんばれ熊建労

福岡県建設労働組合

〒815-0031

福岡市南区清水1丁目22-9

福建労本部(内)

TEL : 092-511-4703

FAX : 092-511-4752

「全木協」応急仮設木造住宅建設 職人の誇り感じる仕事

熊本県と仮設住宅建設の要請を受けている全木協（全国木造住宅建設事業協会）の木造住宅建設がすすんでいます。全木協は、福建労の上部団体である全建総連がJBN（全国工務店協会）と設立した団体で、各都道府県と災害協定を結び、災害時に仮設木造住宅建設の取り決めをおこなっています。福建労でも組合員に建設に携わる大工さんを募り、その事業に就労しています。



熊本仮設住宅 三久保の現場での大牟田支部組合員

大企業に負けない仮設「俺たちがつくる」

東日本の木造仮設は、当時、災害協定がなく「公募」の形でしたが、今回はプレハブ協会と同じ立場で「災害協定による発注、建設」となっています。

プレハブ協会においても被災者救援のために仮設住宅建設を進めています。同協会の所属企業は、大半が大手企業です。

プレハブ仮設の建材の多くは、すでに工業的に製造されたストックが使用されるのに対し、木造仮設では、構造材・内装材も全て、熊本県産材を使用します。床板も県産の無垢材、外壁は杉板の縦張り仕上げです。和室の畳も、イグサの国内生産の8割近くを占める熊本県ですから、もちろん県産材が使用されています。

熊本県の蒲島知事は「プレハブ協会が建てているプレハブ応急仮設団地でも集会所・談話室は木造で」との強い意向を持っておられ、木造仮設に高い評価を示されています。

500人を超える就労者 福建労の就労者は57人(7月27日時点)

7月20日現在、すでに就労している者を含めて500人を超える大工技能者(福建労は7月27日時点で57人が就労)の手配が「建設労働組合」との「労働者供給契約」によっておこなわれています。

県と協定を結んでいた「優良住宅協会」は100戸の取決めが50戸にとどまり、既に木造仮設住宅建設から撤退しているなか、全国建設労働組合総連合の関東、関西、中国・四国、九州の各地方協議会が技能労働者供給の取組に力を合わせています。(県本部 池田書記)

熊建労支援行動 学ぶべきは組織の力

7月18日、熊建労がれき撤去の支援活動に参加しました。

当日は、熊建労から9人、福建労からは本部書記3人を含め、福岡東、福岡西、筑紫支部から合計10人が熊建労西部支部事務所で9時から打ち合わせ開始。

二手に分かれて、熊本市中央区出水6丁目で被災された組合員宅のコンクリートブロック等解体撤去作業をおこないました。

日頃から現場に出ている組合員の手際の良さが際立ち、私が訪れた班ではおよそ1時間で2トン車一杯になる「がれき」を積み込みました。

別の班も近所ということで移動して応援に入り、筑紫支部の宇野さん(76)がユニック車の荷台にのぼり、がれきを積み上げる作業をされているのにびっくり!

この活動に参加することで、いろいろ学ぶことができました。熊建労の仲間たちが日常的にヨコのつながりや、分会としての団結力がしっかりしている様子が、西部支部事務所に掲示してある分会役員一覧等からも読み取れました。

まだまだブルーシートがかけられた屋根が目立つ熊本市内。復興に向けて私たちにできることは何か。それぞれの条件にあわせて、支援活動の輪を広げていこうと決意を新たにしました。(福岡西 相場通信員)

■支援活動(熊建労ニュース37号より)

7月24日に、福建労の仲間が9人ボランティアに参加

同じ日に、八代支部の4人が家具転倒防止のボランティアを実施。ボランティアを装った詐欺が多数発生しており、自治体からの注意が高齢者宅に回っている中、元組合員の協力も得ながら2軒のお宅で作業をしました。

■被害状況(熊建労ニュース37号より)

7月25日 9時現在

支部名	城北	菊鹿	阿蘇	東部	西部	宇城	八代	計
ケガ		0	0	7	6	10		23
全壊		2	1	79	14	20		116
半壊	1	8	3	179	20	41	2	254
瓦・一部	14	22	6	328	40	157	9	576
地盤沈下 液状化			1 (川沿い)					1
土石流避難			4					4



参加した福建労のメンバー